家畜衛生だより

Ｒ８－２６　　令和８年１０月発行

置賜家畜保健衛生所
置賜家畜衛生指導協会
〒999-2232 南陽市三間通 444-3
0238－43－3217
0238－43－5249

アカバネ病の県内侵入が確認されました！

家畜保健衛生所で毎年実施している抗体調査で、アカバネウイルスの県内侵入が確認されました。また今月、県内でアカバネ病の子牛が１頭確認されました。

アカバネ病は、アカバネウイルスを媒介するヌカカの吸血によって、主に夏から秋に感染し、流死産や奇形子牛の娩出、難産等を引き起こす病気です。県内でも過去には 2010 年～2011 年にかけて流行が確認されました。

◇　アカバネ病の感染時期（胎齢）別の主な症状 ◇

妊娠初期（1～3ヶ月頃）

流死産、早産あるいはミイラ変性（胎仔死）

妊娠中期（3～6ヶ月頃）

子牛の四肢関節の湾曲症（体型異常）

妊娠後期（6～9ヶ月頃）

子牛の大脳の形成不全や欠損、内水頭症（水無脳症）、盲目などの中枢神経系異常

流死産は流行の早い時期から発生しますが、奇形子牛の娩出やそれに伴う難産は**冬から翌春まで**発生します。今後の分娩の際は注意してください。

本病の治療法はありませんが、流行時期前のワクチン接種により予防が可能です。来シーズンはワクチン接種を徹底して地域全体で被害を防ぎましょう。



神経症状による起立不能



両前肢の関節拘縮

異常があった場合は、診療獣医師または当所に連絡してください！

0238－43－3217　＜ 夜間・休日も対応 ＞